

こひつじ

テーマ

「担い合う」

「互いに交わりを深めよう」

2024 年 初夏号
564 号

2024 年6月30日
カトリック香里教会
編集・発行/宣教委員

キリストを

真ん中にした

「交わりの教会」

主任司祭

ヨゼフ 林和則

3月10日の主日のミサ

より、香里教会に赴任いたしました大阪高松教区司祭、林和則です。ただ、実は今から10年前、2014年の3月に一か月ばかり香里教会の司牧を担当したことがあります。当時の主任司祭であった松村繁彦神父様が一時的にカンボジアに滞在されることになったため、その間の「留守番」を依頼されたのです。そのた

め、再び香里教会の司祭館に足を踏み入れた時に感じたのは「なつかしさ」でした。「帰って来た」かのような思いで、それほどの違和感もなく落ち着くことができました。

私は主任司祭として、信徒の皆さまの信仰を深めることを第一にして務めていきたいと考えています。信仰が深まれば、信仰の喜びも増します。この信仰によって生きる喜びがなければ、ミサへの参加も義務的な、習慣的なものになってしまいます。教会活動も信仰に基かなければ「遣わされた者」としてではなく、こ

の世的な成功や賞賛を求めるなどの自己のための活動になり、教会が自己を主張し合う争いの場になってしまいうことにもなりかねません。「神」が不在で人間的な思いだけがぶつかり合う、この世的な「組織」になってしまふのです。

信仰を深めるということ
を言い換えるならば、それはより深く神と結ばれて行くことです。キリスト教では神の子が人間イエスとなつてくださったことによつて神と結ばれることができ

るのです。これはすばらしい恵みです。

「いつ呼び求めても、近くにおられる我々の神、主のような神を持つ大いなる国民がどこにあるだろうか。」
(申命記4章7節)

この神のことばはイエスにおいて実現しました。「近くに」というのは距離的な

近さだけではなく、人間とははるかにかけ離れた存在である神が人間となつてくださったことによつて「親密な」交わりが持てるようになったことを表わしています。私たちはイエスを通して神と人格的交わりを持てるようになったのです。イエスとつながるためにはイエスの生きざまが刻まれている福音書をはじめとする神のことばである聖書に親しみ、イエスの残されたミサを頂点とする秘跡に生かされて行くことが土台となります。その土台があつてこそ、教会共同体の交わりが人間的な思いではない、神の思いによる交わりになることができます。

香里教会がキリストを真ん中にした交わりの共同体になれすように、一緒にがんばっていきましょう。

目次

- | | | | | | |
|-------------|---------|------|--------------|-------|-------|
| ・林神父巻頭言 | | p. 1 | ・「担い合う」を図解する | | p. 8 |
| ・四旬節黙想週間 | | p. 2 | ・さらば、「歩こう会」 | | p. 9 |
| ・聖週間を振り返って | | p. 3 | ・初めてミサに来た方に | | p. 10 |
| ・「堅信の秘跡」に与る | pp. 4-5 | | ・大阪高松教区情報 | | p. 10 |
| ・座談会「担い合う」 | pp. 6-7 | | ・編集後記 | | p. 10 |

